

Weekly Michael's News

<今週の聖句>

『人々を恐れてはならない。覆われているもので現されないものはなく、隠されているもので知られずに済むものはないからである。』

2017年6月26日発行 No.41

(マタイによる福音書 10:26)

<四条畷学園の高校生がチャペルを見学!! この小さな出会いはどこに、どんな風につながる…?>

新しい年度が始まって約3カ月が経とうとしていますが、大学の中ではオープンスクールなど、次年度の準備が始まっています!! 先日も大阪の四条畷学園から6名の見学者がチャペルを訪れてくれました!! 初めて体験するチャペルの神聖な静けさや、それを打ち破るような荘厳なパイプオルガンの響きに強い興味と驚きを感じたようで、同行された先生と一緒に所々で驚嘆の声を上げていました。訪れた時間は僅かではありましたが、このような小さい出会いや機会を通して大切な成長の種が蒔かれているように感じます。ぜひ来年の春に、このキャンパスでもう一度再会を果たしたいですね!!



チャペルの雰囲気やパイプオルガンの演奏に驚く高校生たち



ボランティア学生の背中にも十字架が…

<チャプレンのバタバタ旅行記 大切な慰霊の日を迎えた沖縄で見たもの、感じたものは…?>

広島「8・6」や長崎「8・9」が特別な意味を持つように、72年前の戦争で激しい地上戦が起きた沖縄にとって「6・23」は、全ての戦没者の命を想い、その痛みと苦しみを改めて胸に刻む大切な慰霊の日となっています。今回初めてそんな沖縄を訪れる機会を得た私は、様々な集会や慰霊碑を訪れる中で、大きな驚きと共に強く感じた事があります。それは、私たちが「見えない大きな力によって生かされ、繋がっている」という事です。様々な問題が叫ばれる時代ではありますが、沖縄の雄大な自然や文化、そして様々な出会いによって、命の土台を見直す事ができたように感じます。



平和集会で奉げられるフラダンス



戦没者慰霊碑の前には多くの花が



平和の大切さを叫ぶ雄大な海と空

<先週のメッセージ>

※ここでは実際に話されたお話の要約を掲載しています

6月19日(月) テーマ:「耳を傾ける」

伊藤 純子(オルガニスト)

少年サムエルは突如神の声を聞く。祭司エリの勧めで応答の返事をした事で神との関係が確かなものとなる…。旧約に記されたこの有名な物語は「聴く」事の大切さを、今日の私たちに告げている。日常生活の中で、様々な違和感を覚える時、目の状況や耳元の騒音に心を奪われる事があるが、そんな時こそ思い切って、自分から離れた遠い所ある違った音に耳を傾けたい。そうすると、自分の中で凝り固まった小さなこだわりが柔らかく溶け、がんじがらめの自分から解放される。「聴くこと」を日常的に行う事こそが、自分に新しい発見と幸せを運んでくれる。サムエルのような純真な目と耳で、思い込みを捨て、柔らかい心と共に、周りに向けて積極的に耳を傾けていきたい。

6月20日(火) この日は、恒例の「音楽礼拝」で、今年度初となる聖歌隊の奉唱を行いました!!

6月21日(水) テーマ:「友がみなわれよりえらく見ゆる日よ

花を買ひきて 妻としたしむ」 東 弘彦(事務局長)

今日の奨励のタイトルは、石川啄木の有名な短歌だ。明治時代、26歳という短い人生の中で詠まれた歌の数々は、今の時代でも色褪せることなく、多くの人々の中に共感を生んでいる。この歌も、誰の中にでもある劣等感、コンプレックスが土台となっている。稼ぎや立場や能力など、この世的な評価によって私たちは様々な感情の穴に落ち込むことがある。またそれらは自分の努力で解決できるものとできないものがある。それによって相手との力の差を強く見せ付けられ、大きく落ち込むこともある。しかし、この歌はそんな中で自分と現実との間で折り合いをつけて行く事の大切さ、またその具体的な方法を示してくれる。この精神こそ、変えられるものを変え、変えられないものを受け止め、それらを見分ける知恵を与えて欲しいと願う有名な「ニーバーの祈り」に通じるものではないか?

6月22日(木) テーマ:「安全運転のススメ」

野間 光顕(チャプレン)

先日、車のサービスショップで勤める整備士と話す機会があった。整備士は、一日に何台もの車をチェックするが、それを通してその車の持ち主がどんな運転をしているか分かると言う。と同時に、「顔を上げて、視点をもう少し先に置く」という具体的な安全運転のコツを教えてくれた。復活したイエスと出会ったマリヤは「後ろを振り返って」いる間は、目前にイエスが現れてもそれがイエスと分からず、墓の管理夫だと勘違いしてしまう。しかしイエスからの呼び掛けに顔を上げる時、平和の主の存在に目覚め、その復活の喜びに与かる。私たちも、顔を上げ歩みの先におられる主とその希望に対して視点を置き、共に歩みを進めていきたい。

6月23日(金) テーマ:「Fair*Clover 誕生の秘密」

玉置 彩華(経済学部)

この大学に入って約3カ月、私は様々な出会いや学びからこの世界にある格差の問題を知った。特にその問題の深さを教えこれまでの私の発想を変えてくれたのがFair*Cloverの存在だ。この団体はあるゼミの学生が大学を変え、自らに誇りを持ちたいという願いから作られ活動が始まった。「Fair」は、世界の人々が公平な社会をつくること、「Clover」は、四つ葉の花言葉(愛情,希望,信仰,幸福)が集まり世界の人々が公平で愛に満ちている一歩を作るという意味がある。今日の聖句「私につながっていないさい。私もあなたにつながっている。」はイエスが目指した真の連帯を表す。ここにおいてこの活動とキリスト教は同じ土台を持っている。この活動を広めていくために、更に学びを深めたい。



(文責:野間 光顕)